

第12回教育研究審議会

議事概要

日時 令和元年 10 月 23 日（水） 午後 4 時 00 分～午後 5 時 15 分

場所 本部棟 3 階 大会議室

出席者 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、新保祐司副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、竹島達也大学院研究科委員長、西尾理学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、平野耕一学長補佐、樋口雄人学長補佐、加藤敦子国文学科長、Hywel Evans 英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、廣田健教職支援センター長、竹下勝雄地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、豊嶋朗子語学教育センター長、市原学入学センター長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、藤江隆学生課長

欠席者 野中潤図書館長(兼)情報センター長

福田学長より挨拶

1 開 会 福田学長より挨拶

2 議 事

(1) 令和 2 年度 非常勤講師担当科目コマの発議・提案について（国際教育学科）2 件

○担当から資料 1-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。→提案通り承認。

◇①MYP/DP カリキュラム編成法・MYP/DP 教授法など

◆令和 2 年度国際教育学科開講科目・昨年度講師がおらず未開講科目

②PYP 教師教育法 ◆令和 2 年度国際教育学科開講科目

○担当から資料 1-2 及び資料 1-2 補足・補足追加に基づき「非常勤講師採用候補者の提案①」について説明。→提案通り承認（予定 1 年間）。

◇所属学会なし 新規採用者 ランク A

→他大学の先生ではあるが、大学院であり学部を教えてないこと、また著書・学術論文が空欄であるが一つもないのか？

→国際教育学科の講師が筑波大学で実際に授業を受講しているため内容は学科内で精査済みである。また、実務畑を重視しているため学会に属しておらず論文等はない。しかし IB 教員養成に関して、実技的スキルを教授するスタイルにおいては適任であると学科内で判断した。なお、IB 部分のみを担当してもらうものである。

◇担当から資料 1-3 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案②」について説明。→提案通り承認（予定半年間）。

◇日本学校教育学 新規採用者 ランク A

→業績も申し分なく、山梨学院と良い関係も望めるものであるが、国際教育学科では英語での授業としておりその部分はどのような対応予定になっているか？

→日常的に英語を使用しているものではないが、日本語ベースの IB プログラム授業をし

ており、本学での教材などについては英語の使用をお願いしてある。

(2) 令和 2 年度 非常勤講師担当科目コマの発議・提案について (語学教育センター) 2 件

○担当から資料 2-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→精査のうえ再提案。

→最低限としても予定受講者数見込みを提示してもらう必要がある。

→現時点で分かっているのは、欧米圏ではカリフォルニア 2 名・セントノーバート 1 名・ラトガーズ 0 名・ブルックス 1 名・アジア系不明

→他の学校等で留学生が増えており、日本語教員の需要が増えてきているため確保が困難となっている。

(3) 令和 2 年度 非常勤講師担当科目について (第 3 回)

○担当から資料 3 に基づき説明。→提案通り承認。

(4) 令和 2 年度 開講科目について (地域社会学科・社会学科)

○担当から資料 4 に基づき説明。→提案通り承認。

(5) 教養科目履修者数の上限について (共通教育推進会議)

○担当から資料 5 に基づき説明。→提案通り承認。

・教養科目は 120 名を上限とする。(一部除く)

理由：講義の教育効果や教室、また TA 不足など

(6) 講義等の休講措置について

○担当から資料 6 に基づき説明。→本日は提案のみとし次回以降に決定する。

(7) その他 ○なし

3 報 告

(1) スペイン語学研修参加学生奨学金返還について

○担当から資料 7 に基づき報告。

→語学研修先大学との連携について検討する必要がある。

(2) 国際交流会館 307 号室入居学生について

○担当から資料 8 に基づき報告。

(3) その他 ○なし

4 その他 ○なし

5 閉 会

以 上